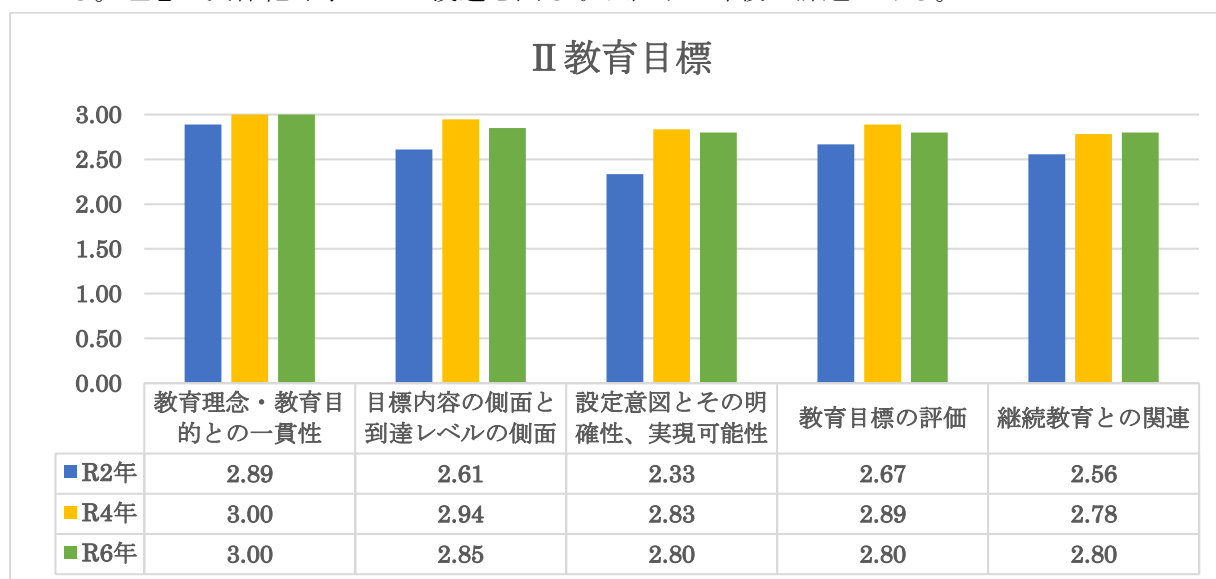


I 教育理念・教育目的 6項目 平均点 2.72 (2.77)

すべての項目で平均点 2.5 (83%) 以上の点数となっており、おおむね高い水準を維持している。教育内容や質保証に関する記述の明確性は引き続き評価されている。

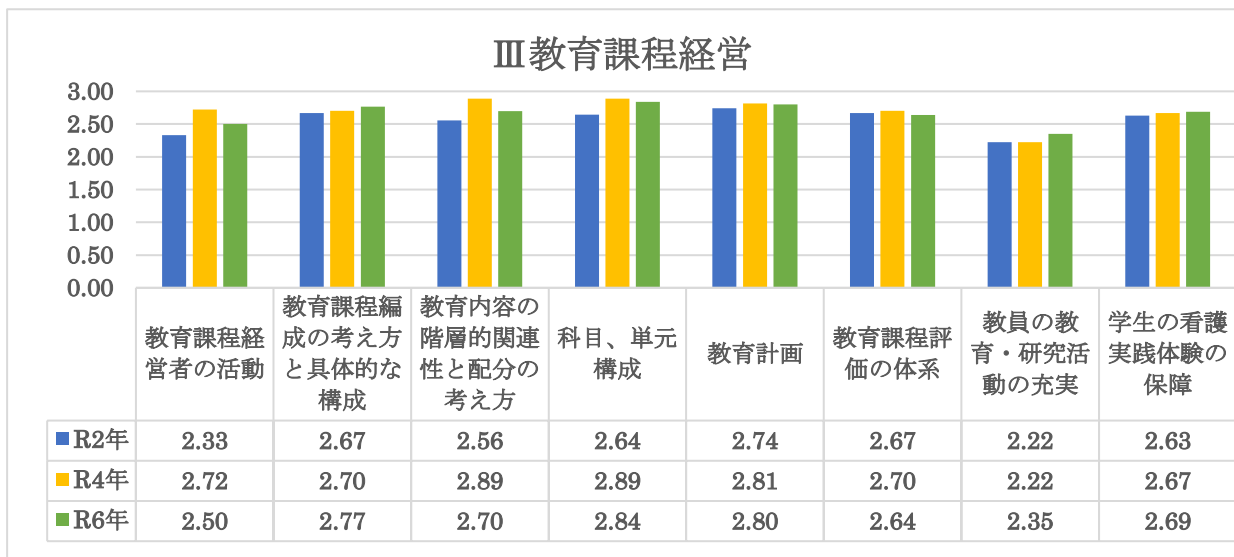
一方で、「理念が学生の実際の学習指針として機能しているか」の項目は、令和4年度より低下がみられた。これは、理念の周知や日常的な教育活動への落とし込みが十分でない可能性を示している。理念の具体化や学生への浸透を図る取り組みが今後の課題である。



II 教育目標 5項目中 平均点 2.89 (2.57)

教育目標は、教育理念との一貫性や到達レベルとの対応において、令和4年度と同等か微増の結果となった。特に、教育内容の網羅性や到達レベルの明確化は安定して高い評価を得ている。一方で、教育目標の具体性・実現可能性についてはわずかな低下がみられ、目標の表現や運用面での改善が求められる。

I 教育理念・教育目的、II 教育目標は学生にとって学習の指針になることから、評価に当たっては卒業時における学生の達成状況が指針となる。学生自ら卒業生像に向かっていけるよう教育活動に取り入れていく。

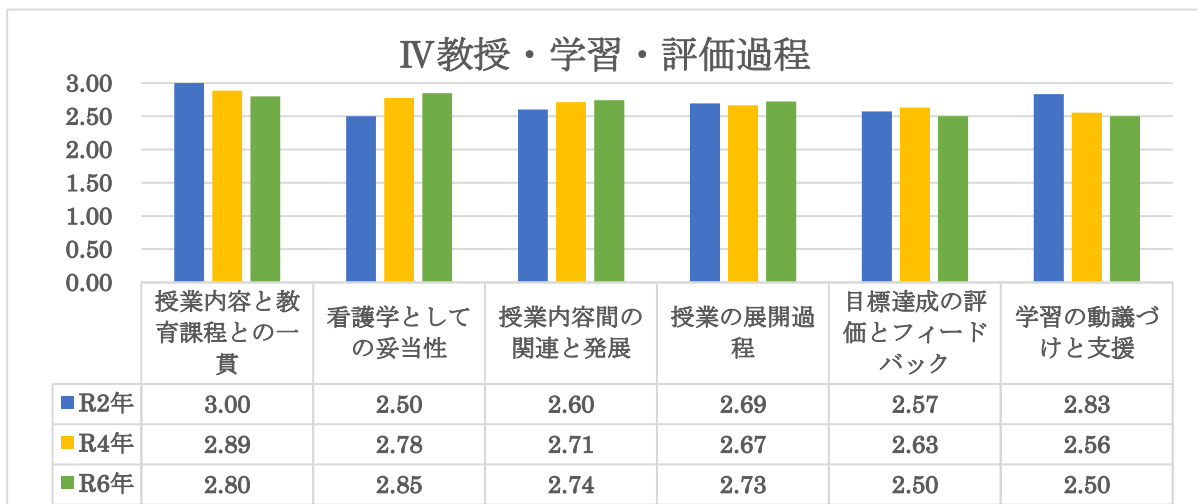


Ⅲ教育課程経営 7項目中 平均点 2.67 (2.50)

8項目中、平均点以上の項目は6項目である。

教員の専門性発揮のための配分や臨地実習施設の支援体制など、一部で改善がみられた。しかし、教育課程と授業・評価の関連性に関する教職員の理解は令和4年度より低下しており、教育課程の意図や構造を共有する機会の強化が必要である。今後も専門分野以外の科目を担当することは自らの成長に有効であると捉え、教員同士の協力体制の構築に努めていく。

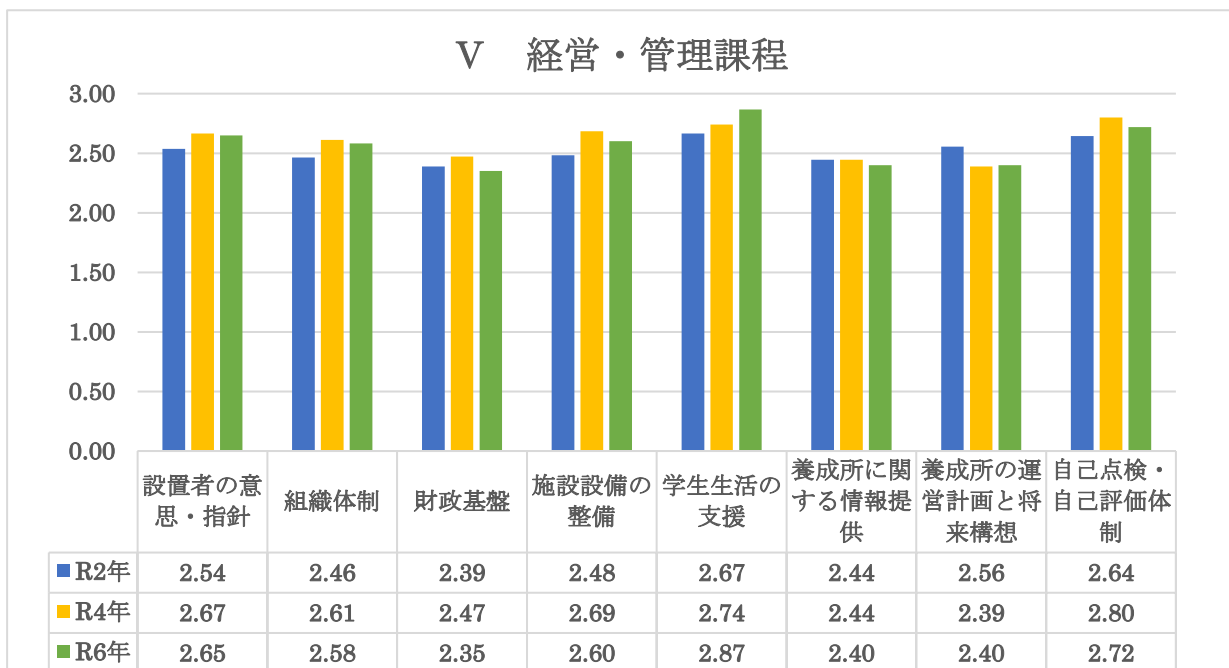
また、評価結果の倫理規定の明確化も課題として残った。



Ⅳ教授・学習・評価過程 6項目中 平均点 2.65 (2.65)

すべての項目が2.5以上の高評価であり、授業内容の妥当性や科目との整合性は向上し、看護学教育としての体系性が強化されている。一方で、「目標達成の評価とフィードバック」「学習の動機付けと支援」は最低点であり、評価計画の立案・実施、多面的評価の導入は、R4年度より低下している。授業計画立案では、授業内容に応じた授業形態の選択・指導技術の工夫・教材教具の活用をしながら実施し、科目評価はシラバスなどで提示している。

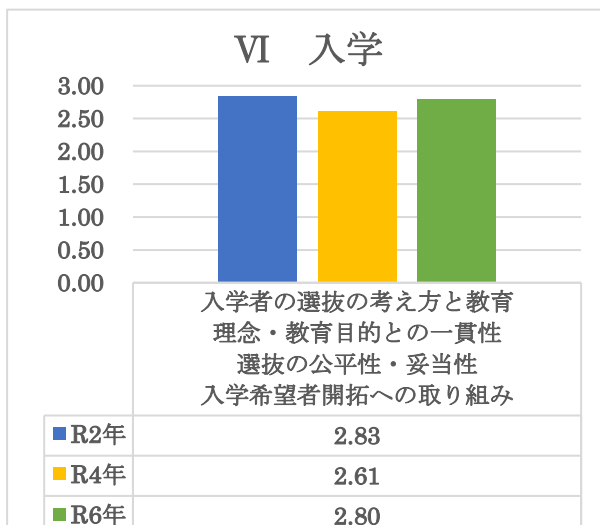
学内技術演習の評価や臨地実習の評価では、担当教員と面談を行い自己の課題の明確化を行い教員と学生間の共通確認することが出来ているが、科目評価は試験の返却のみとなっていることが多く、学生個々へのフィードバックがタイムリーにできていない状況にある。今後は、評価方法の多様化やフィードバックの質向上が、今後の重点的な改善領域である。



V 経営・管理課程 8項目中 平均点 2.62 (2.52)

組織体制の明確化や管理者の考え方と設置者意思の一貫性など、組織運営に関する項目は概ね横ばいか微増で推移した。組織運営に対し、一定の理解が得られ、現状を踏まえながら教育にあたっていると考えられる。一方で、意思決定事項の周知体制はやや低下しており、情報共有の仕組みの見直しが求められる。

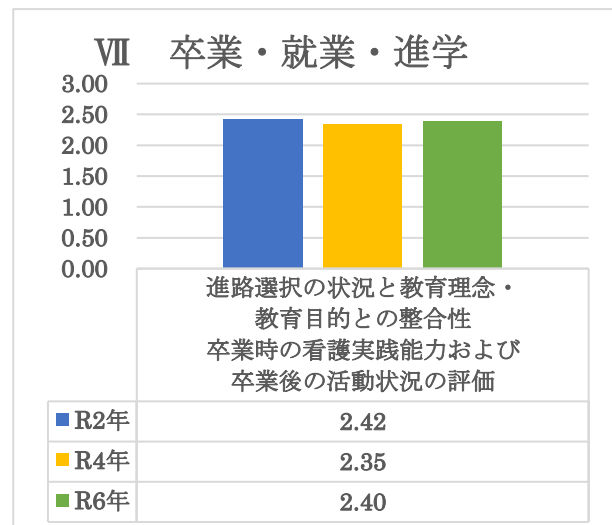
今後も、学生の視点で物事を考え支援していけるよう青式体制を維持し、経営管理していく。



VI入学 平均点 2.61 (2.83)

入試委員会を中心に入試に関する公平性を維持し、入試問題の作成、入学試験の実施、入学者の選抜を実施しており、入学者選抜に関する項目は、教育理念との一貫性や入学者状況の分析などで改善がみられた。選抜の透明性や妥当性がより明確になっている。

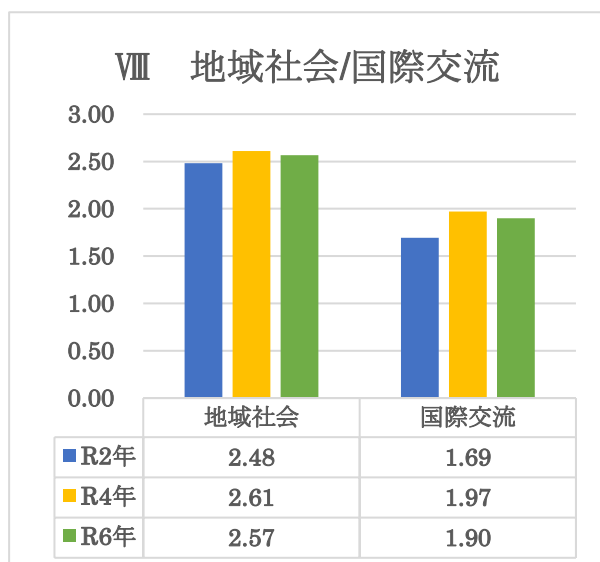
今後、定員確保と学力等の質の担保を維持できるように入学生の推移について分析し検討していく。



VII 卒業・就職・進学 平均点 2.35 (2.42)

卒業時の到達状況の分析は高い評価を維持しているが、卒業生の活動状況の把握と教育改善への活用は依然として課題である。就業・進学状況の分析も改善傾向にあるものの、さらなるデータ収集と活用が必要である。

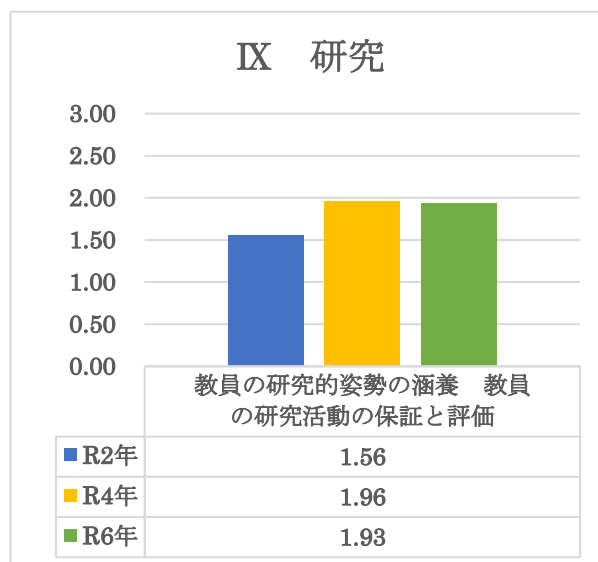
就職先との連携を促進し、卒業生の活動状況を計画的に調査していく必要がある。



Ⅷ 地域社会/国際交流 平均点 2.36 (2.17)

地域社会との連携は横ばい～微増で推移し、情報発信手段の整備など一定の成果がみられた。一方で、地域貢献の組織的実施は低下しており、計画的な地域連携の推進が求められる。地域の豊富な資源を活用し、地域に根ざした教育活動を目指す必要がある。各施設や病院の行事に参加し地域と交流していく。

また、国際交流は構造的に低水準で推移しており、現状維持の傾向が続いている。地域の特性もあり十分な教育の機会が提供できていない現状であり、R5より、JICA 北海道より非常勤講師を依頼している。



Ⅸ 研究 平均点 1.96 (1.56)

9 カテゴリーで最下位である。研究活動に関する項目は全体として低水準であるが、令和4年度から大きな悪化はみられず、微増の項目もある。ただし、研究活動の助言・検討体制は依然として課題であり、教員の研究活動を支援する仕組みの整備が必要である。

研究活動という意識を授業研究に向け、各専門領域の科目担当、担当時間数の公正性を保ち、取り組む必要がある。